



100周年記念祝賀晩餐会で談笑される皇太子殿下

創立100周年を迎えた日本山岳会 日本山岳会に入会して

徳仁親王



2005 年 (平成 17 年)
11 月号 (No. 726)
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価 1 部 150 円
URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目 次

創立100周年を迎えた日本山岳会	
日本山岳会に入会して……	1
記念式典、祝賀晩餐会……	4
記念講演会……	7
百周年を祝う……	10
中央分水嶺踏査……	12
青森／石川／京都	
支部だより……	14
信濃／東海	
パキスタン北部地震救援のお願い……	16
東西南北……	17
中央分水嶺踏査 (番外編)	
図書紹介……	18
100周年記念事業 会員並びに 有志募金の御礼とご報告(7)……	20
新入会員……	20
図書受入報告……	20
Climbing & Medicine・50……	21
会務報告……	2
ルーム日誌……	22
会員異動……	22
INFORMATION ……	23

▶ 日本山岳会事務 (含図書室) 取扱時間
月・火・木 …… 10～20時
水・金 …… 13～20時
第2、第4土曜日 …… 閉室
第1、第3、第5土曜日 …… 10～18時
年末年始休室・12月29日～1月5日

日本山岳会という名前を知ったのはいつ頃だったか、はつきりとは記憶していない。しかし、今にして思えば、私は、小学生の頃から書籍を通して、人の話を通して、あるいは、日本山岳会の方々とお会いすることなどを通して、知らず知らずのうちに日本で最古の、そして最大規模の日本山岳会という存在に近づいていったような気がする。

5歳の時に軽井沢の離山に登ったのを皮切りに、私は山登りに関心を持つようになった。今、私の手元に少し古びた山溪カラーガイド『日本の山々』(山と溪谷社)がある。日本の山々の美しいカラー写真とそれぞれの山についての興味あふれる説明文は小学校高学年の私の山への関心をかきたてたものであった。その当時は何気なく目にしていた文章も、日本山岳会の会長も務めた武田久吉・三田幸夫・西堀栄三郎氏ら日本の登山の発展に多大な貢献をされた方々によるものと後で知った。

また、同じ頃、両親の書棚にあった、『世界文化地理大系』(平凡社)を両親とよく眺めた記憶がある。ことに、8巻の「中央アジア」にはヒマラヤやカラコルムの山々の写真が掲載されており、世界には年中雪に覆われたこんなに高い山があるのかという驚きを覚えたものであった。K2、カンチェンジュンガといった山名は確実にこの本を通して覚えたものであるし、日本隊によるマナスル登頂について知ったのもこの時期であった。

小学校高学年のおりに読んだ横有恒氏の『マナスル登頂物語』(あかね書房)にはとても感動した記憶がある。

秩父宮殿下の登山の話も秩父宮妃殿下から、あるいは両親から、登山に同行した横、三田、松方三郎氏の話とともに聞き、山登りに関してすごい大叔父がいたことも知った。また、この頃から加藤泰安、梅棹忠夫、川喜田二郎氏などから登山や探検についての様々な話をうかがう機会に恵まれたことも幸いであった。

話は若干前後するが、私をはじめて上高地を訪れたのは乗鞍岳に登山をした1967年のことであ



90周年の記念フォーラム「ヨセミテからのメッセージ」にご出席の皇太子殿下ご夫妻

った。河童橋や明神池から穂高連峰を眺め、その美しさと険しさに驚いたことは確かであるが、近く穂高に登りたいという思いを抱いたように記憶していない。しかし、この時の記憶が、その後の私に、日本の山々の登山史についての好奇心を呼び覚ましたように思う。

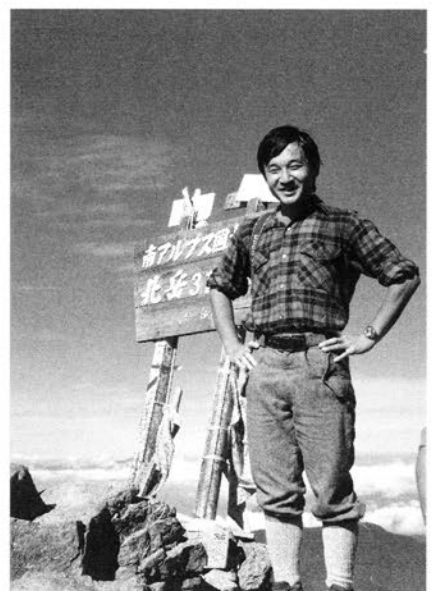
ヒマラヤをはじめ眺めたのは1987年にネパールを訪れたおりであった。ポカラに到着した日の夕刻、茜色に染まったマチャプチャレが雲の間から姿を現した。その頂は、私の想像を遙かに超えた高さに位置していた。フィッシュテール・ロッジに宿泊した翌朝、ペア湖の向こうには美しいヒマラヤの峰々があつた。マチャプチャレ、アンナプルナ、ダウラギリ等それまでは写真や映像でのみ接していた山々を実際に眺め、神々しさに心を打たれるとともに、「神々の座」を目にすることの出来た喜びをかみしめた。

ポカラからの帰路は天候も良く、飛行機の機内から更に多くのヒマラヤの山々が眺められた。ヒマールチュリ、マナスル、P29などと

いったいずれも日本隊が初登頂した山々も間近に眺められた。カトマンズも近づいた頃、遙か彼方にひととき大きくチョモランマ(エヴェレスト)が眺められた。そばには優美な姿のマカルーも見えた。これらの山々が飛行機と同じ高さにもつながって眺められることにまずもって驚いた。やはりヒマラヤは高い! と改めて思った。

思いがけずも日本山岳会の会員にさせていただいたのはネパールでヒマラヤに接した同じ1987年のことである。その年の私学会

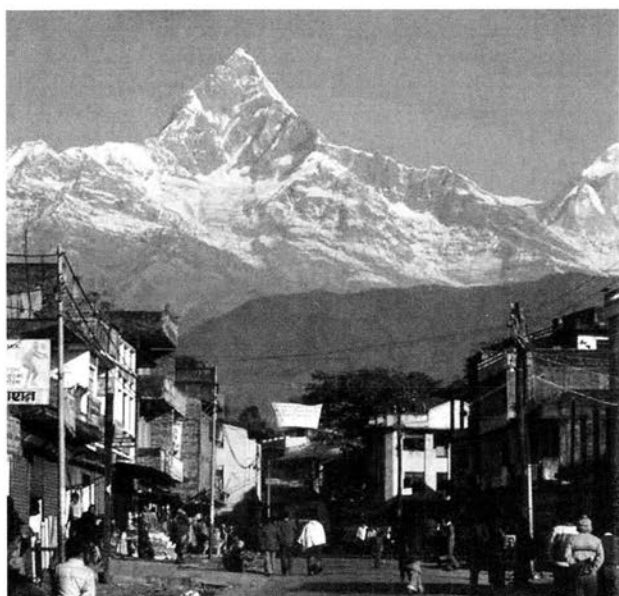
館で行われた年次晩餐会に出席し、当時の日本山岳会会長でマナスル登頂者でもある今西壽雄氏、副会長の宮下秀樹氏、西堀栄三郎氏、



日本山岳会入会の1987年夏、北岳から白峰三山を縦走された 写真提供=「岳人」編集部

田部井淳子氏をはじめそうそうたる顔ぶれの方々と、私にとって未踏峰の「富士山」のテーブルに一抹の恥ずかしさを覚えながら着いた日を、つい昨日のこのように懐かしく思い出す。小さい頃からおりに触れ書物で読んだり、話に聞いたりした岳人の方々と同じ伝統ある日本山岳会に入会できた喜びはひとしおであった。また、当日は、晩餐会に先立って日本山岳会のルームを訪ね、日本山岳会の資料や膨大な山岳関係図書を目にし、日本山岳会の歴史や伝統の一端に触れることが出来た。

入会以来、今日まで、日本山岳会は、海外・自然保護・科学をはじめ多くの委員会や支部を持ち、



ボカラの市街から間近に望めるマチャブチャレ

私が見聞しただけでも多分野にわたり幅広い活動をされてきていると思う。それらの活動に対して、心から敬意を表したい。翌88年のチョモランマへのネパール・中国・日本の登山隊による三国友好登山は、チョモランマ山頂への登山の様子がテレビで詳細に放映され、臨場感があり、とても興奮した。

また、山岳会主催の行事でもいくつも思い出に残るものがある。90年に青山学院大学総研ビルで開催された、自然エネルギーに関するシンポジウムでは、太陽光や風

力による発電が山小屋で実用化されている状況にたいへん興味を持った。翌年の山岳環境保護国際シンポジウム東京会議では、エドモンド・ヒラリー卿、モーリス・エルゾーグ、ラインホルト・メスナー、クリス・ボンントン各氏などの海外の著名な登山家の方々とお会いできたことも大きな喜びだった。

また、95年の日本山岳会創立90周年記念フォーラムは、世界最初の自然環境保護運動の地ヨセミテから日本の上高地や北アルプスの

自然保護について考えるものであり、当日は、かつてヨセミテを訪れた雅子もご招待いただき、ステイブン・メドレー氏による講演やパネルディスカッションを聴講し、ともに充実した一時を持つことが出来た。

本年、日本山岳会は創立100周年を迎えられた。まずもって、

そのことを心からお祝いたい。

私も先日行われた日本山岳会の創立100周年の晩餐会に出席させていただいたが、厳肅な中にもいつもと変わらない温かさが感じられた。入会時の晩餐会のおりに感じていた緊張感も晩餐会の数を重ねるにつれとれてきたように思うが、今回も着席した「富士山」は依然として未踏峰である。会場では、平山会長はじめ会員の皆様のお元氣な姿に接することができ、

とてもうれしかった。隣の席には、アメリカ山岳会のマーク・リッチー会長夫妻が座られ、アメリカの山岳会のお話などもうかがえた。

晩餐会のスピーチでは、日本山岳会が、平均年齢が64歳という高齢化を迎えているという話があったが、アメリカ山岳会の平均年齢は

リッチー会長によれば私と同じ45歳であるらしい。山の魅力が、より多くの若い人々にも理解されることを望んでやまない。

本文の結びにあたり、入会以来今日まで、日本山岳会の多くの方々から寄せられている数々のご厚情に対して心から感謝申し上げます。それとともに物故された方々のご冥福もお祈りしたい。入会にあたりたいへんお世話になった今西壽雄氏、アンナプルナ、立山、剣岳の話などをうかがった藤平正夫氏、年次晩餐会のおりにはよく同じテーブルで、昔の登山の話などをされていた望月達夫氏、奥多摩の三頭山に同行してくださった佐藤正倫氏、ヒマラヤ登山について目を輝かせて話しておられた大西宏氏など、思い出は尽きない。

武田久吉・小島鳥水氏らによる日本山岳会設立の主旨書には、無限の広がり秘めた山に対する旺盛な探求心と崇高な理念が漂っているように思う。日本山岳会が次の100年に向けてさらなる発展をとげられることを祈念して筆をおく。

創立100周年を迎えた日本山岳会

記念式典・祝賀晩餐会

華やかに 厳かに開催

■約1000人が出席

日本山岳会創立100周年記念式典・祝賀晩餐会は10月15日、東京・品川の新高輪プリンスホテル「飛天」で、華やかに、かつ厳かに行なわれた。皇太子殿下はじめ約950人の会員が出席、国内外からマーク・リッチーアメリカ山岳会会長、キャメロン・ロウカナダ山岳会会長、李致新中国登山協会副主席、文熙晟韓国山岳会名誉会長、アン・ツェリン・シエルパネパール山岳協会会長、ナジール・サビールパキスタン山岳会会長など26人の来賓を迎え、100年の歩みを振り返るとともに、次世紀への飛躍を誓った。

記念式典

■会長式辞 さらなる発展を

「いよいよ当日を迎えました」と、式典を準備してきたスタッフの感

慨深げな言葉が式典手引き「栞」にあった。5770人の日本山岳会

のすべての会員が待ちに待った日だ。程度の差はあれ、想いは同じだったろう。すでに東北や京岐北陸、九州ブロックなどで記念式典が開かれている。この式典は、これらを締めくくる意味合いも持つ。式典は午後3時30分から始まった。まず、亡くなった会員に黙祷をささげた。黙祷に続き、平山会長は、次のような式辞を述べた。「100周年を迎え喜びに耐えない。多くの先輩のご努力により、日本山岳会の今日のあることに思いをはせ、深く感謝したい。」

日本山岳会は明治38(1905)

年10月14日、小島烏水ら7人の発起人によって設立された。英宣教師ウォルター・ウェストンの強い勧め、また英国山岳会の温かい励ましがあった。発起人の平均年齢は27・5歳という若さだった。発



式辞を述べる平山会長

起人の呼びかけにこたえ、最初の1年間に393人の会員が入会した。高頭仁兵衛氏は毎年1000円ずつ10年間にわたって寄付し財政面で支援し続けた。当時の年会費は1人1円だった。ごく最近、

これが18年間も続いたことが判明。英国山岳会の創立は、日本山岳会より50年近く前のこと。英国に続き、オーストリア、スイスなどに続々と山岳会が誕生した。米国は1902年、カナダは06年。日本山岳会は両国にはさまれ、兄弟山岳会といってもよい存在だ。

日本山岳会は着実な歩みが続けた。1920年には会員番号制を制定。21年には横有恒がアイガー東山稜に初登攀、続いて25年にはアルバータ初登頂に成功した。これらはわが国登山界に大きな自信

を与え、近代アルピニズムを定着させた。大学山岳部の設立をみると、慶応が15年、学習院が19年、早稲田が20年で、あと20年代に法政、立教、明治、日大、農大、東大などで相次いで誕生。これら大学山岳部は困難なルートをつぎつぎと切り開いていった。

1929年、虎ノ門に初めてクラブ・ルームを持った。41年に社団法人となり、49年には、御茶ノ水にルームを新設した。ルームはオリンピックを機に移転し、78年になって、ようやく現在の四番町



記念式典で特別功労表彰を授与された方々



95席がずらりと並んだ盛観な会場

に落ち着くことができた。

支部は35年に関西支部が初めて設立されて以降、46年に越後、47年には石川、信濃、福島で設立された。2000年設立の北九州がいちばん新しく、現在は25支部。代表的な海外登山をみると、36年に立教大がナンダ・コート初登頂に成功している。56年のマナスル初登頂は世界の8000峰

頂の8番目だったが、暗い世相のなか国民に勇気と希望を与え、かつてない登山ブームをもたらした。70年にはエヴェレスト登頂に成功した。

先人の業績をしのべば歴史の重みを感じざるを得ない。日本山岳会は、会員の高齢化や価値観の多様化に伴うさまざまな問題を抱えているが、未踏の頂・未知の領域

を求める心は変わらない。さらなる発展に英知を結集していききたい」

あわせて、「目で見る日本山岳会の100年」がスライドで紹介され、100年を振り返った。

■UIAA会長、田中・日山協会長に祝辞託す

来賓を代表して田中文男・日本山岳協会会長から祝辞をいただいた。田中会長は「日本山岳会が登山界に果たした役割は偉大である。日本の近代登山を築いてきた。マナスル初登頂には、胸をとどろかせたものだ。登山を文化の域にまで高め、さらに大衆にまで広げたのは、すばらしい登山の積み重ねだ。これからも日本山岳会と一緒に歩み、新たな山頂をめざしたい」と語った。

田中会長は前日まで、シンガポールで開かれた国際山岳連盟(UAA)の総会に出席。その際、多くの国の山岳会からお祝いの言葉をもらったという。アラン・ブラクシヨール国際山岳連盟会長から日本山岳会へメッセージとともにお祝いの品を託され、これを平山会長に手渡した。

■信濃支部等に特別功労表彰

日本山岳会に対して協力をいただいた団体等を特別功労者として表彰、感謝状を贈呈した。

〔団体〕読売新聞社Ⅱチヨモランマ登山などへの支援。毎日新聞社Ⅱマナスル、エヴェレスト登山への支援と協力。

〔個人〕吉村健児Ⅱ長年にわたる日本山岳会への支援。今西芳子Ⅱ日本山岳会運営、ネパールとの交流に大きな貢献。松崎中正Ⅱ所蔵絵画、シユラギントワイトを寄贈。

〔支部〕信濃支部Ⅱウエストン祭を主催し山岳文化の啓蒙に尽力。東海支部Ⅱ長年にわたって海外登山を実践し活発な支部活動を展開。

■永年会員を紹介

新しい永年会員13人が紹介された。継続して50年間会員だった方々。昭和30年4月から31年3月に入会した会員である。ちょうど、日本山岳会がマナスル初登頂にむけ、第3次登山隊を組織・登頂準備していたころだ。うち7人が出席し、平山会長が永年会員章を手渡した。

新永年会員は、山本侑介(42



「写真で見る日本山岳会の100年」をパネルで展示

最後に、100周年記念事業委員会・平林克敏実行委員長が謝辞を述べ、記念式典を終えた。

61)、小野一丸(4268)、三枝礼子(4285)、上條岳人(4292)、山村康一(4294)、佐久間高男(4301)、保科文人(4309)、久保田宣夫(4321)、富沢磐(4329)、大久保義彦(4333)、村上昭三(4344)、篠田一郎(4345)、山田一介(4348)。

祝賀晩餐会

■山名プレートずらりと並ぶ

祝賀晩餐会は午後6時から始まった。いつもの年次晩餐会と同じように山名をつけた丸いテーブルの山名はすべて百名山。95席とあって5座がはずれる計算になるが、これだけ並ぶと実に壮観である。座席は指定されていて整然と着席、皇太子殿下をお迎えした。

来賓から祝辞をいただいた。アメリカ山岳会のマーク・リッチー会長は「日本山岳会が100年にわたり登山と探検、登山技術に卓越した成果を出すことに自ら課して実践したことは賞賛に値する。ヒマラヤにおいては、マナスルの初登頂、エヴェレスト南西壁の冬季初登頂など意義ある記録は枚挙に暇がない。われわれ2つのクラブが新しい世紀に船出するにあたり、すべての国々のクライマーの友好と協力が、手に手をとって進められることを願う」と挨拶した。

雅楽の演奏があった。築地本願寺雅楽会の演奏。舞曲はNHK大河ドラマ「義経」のタイトルにも登場した蘭陵王など。恒例の鏡開きは国外からの来賓者で行なった。



築地本願寺雅楽会の演奏

「ヨイシヨ」という掛け声に会場におおきな拍手がわいた。酒は故今西壽雄名誉会員の芳子夫人からの寄贈。ずばり「山」との銘があった。村木潤次郎元会長の音頭で乾杯し、会食に入った。チロル音楽の演奏もあり、和やかな会食を楽しんだ。国外の来賓が紹介され、大きな拍手でもって歓迎した。

■山野井泰史氏らの講演

記念式典・祝賀晩餐会に先立ち、午後1時から、山野井泰史氏、山田二郎元会長の記念講演があり、ロビーでは、資料映像委員会による「写真で見る日本山岳会の100

0年」が展示された。写真展は、ウェストンから始まり、小島鳥水ら創立期メンバー、秩父宮様、横有恒、また女性登山のパイオニアを紹介。ナンダ・コート、マナスルなどの初登頂やクラブ・ルームの変遷、最近の自然保護活動などの写真が展示された。

■山岳会所蔵山岳図書・絵画展

10月8～17日、東京・丸の内の丸善で日本山岳会が所蔵する山岳図書・絵画展が開かれた。日本山岳会は1万5000冊にのぼる書籍を所蔵している。そのなかから和書65点、洋書54点を展示した。総合的な一般公開は70年ぶり。

■景信山で懇親山行

翌日の懇親山行は、東京・景信山で行なわれた。雨にもかかわらず、全国から110名の参加者があった。景信山での記念撮影後、山麓で100周年記念事業の一環として進められている「高尾の森づくり」を見学。高尾の森ベースでは、スタッフ手作りのトン汁がふるまわれた。参加者は前日の余韻にひたりながら秋の山を楽しんだ。

(文)高橋重之

記念講演会

記念式典、祝賀晩餐会に先立ち、午後1時から「飛天」にて記念講演会が開催された。講演者は、当初、1950年、フランス登山隊隊長としてアンナブルナに挑み、人類で初めて8000^{メートル}峰登頂に成功したモリス・エルゾーグ氏と日本を代表するアルパイン・クライマーの山野井泰史氏を予定。

生還と復活

—ギャチュン・カンからポタラへ—

僕は10歳の時から山登りを始めました。ロッククライミングも中学生の時からです。技術的に難しいものと未知なるものを求めてきたことは他の登山者と同じです。ありませんが、僕の特別なところは1人(ソロ)で登ることが多いということです。これは精神的にも技術的、体力的にも厳しいのですが、やはり終わったあとの充実感が大きいからです。

しかし、エルゾーグ氏が健康上の理由から来日不能となり、元会長の山田二郎氏に代わった。山野井氏はスライドをまじえ「生還と復活」を語り、山田氏は「私の山登り」と題して話をされた。以下は、その抜粋である。

なお、講演には約1000人の参加者があった。

山野井泰史

僕が初めて単独で大きな山に登ったのは、88年、北極圏にあるバフィン島のツール西壁という岩山です。標高差1400^{メートル}、これを7日間かけて登りました。これがいへん大きな自信につながりました。ついで南米のパタゴニアにあるフィッツロイ。これは89年には失敗しましたが、翌90年に再度のチャレンジで成功しました。技術面もさることながら精神面を学

んだような気がしました。

そして91年からはヒマラヤに向かうようになり、まず最初に登ったのは8054^{メートル}のブロードピーク。このときは単独ではありませんでした。が、無酸素で8000^{メートル}峰に登れることを確認でき、これ以降、僕は20回以上ヒマラヤに向かうことになりました。94年には8201^{メートル}のチョー・オユー南西壁を1人、それもアルパインスタイルで、しかも50時間余りで頂上に立つことができました。これはひとつの夢の実現の瞬間でもありました。ついでレディースフィンガー、この山では空腹が続き、この登攀ルートをイスラムの断食に譬え「ラマダン」と名づけました。2000年にはK2。ベースキャンプを出発してから48時間後には頂上に立っていました。

そして2002年には遭難したギャチュン・カンです。その前に妻の妙子とアメリカでトレイニングを積みみました。そして9月、ネパールで準備し、チベット領に入りました。僕らにとつてチベットは3回目です。チベットに入ってもトレイニングを繰り返し、調子は大変よく、5000^{メートル}ぐらいで

も脈拍は正常でした。

僕らはヤク5頭と使い手3人、ネパール人のコック1人とでキャラパンを開始しました。そして5500^{メートル}の地点にBCを設置しました。ギャチュン・カンにはまだ8^{日も}も手前ですし、あまりいい場所ではありませんが、これ以上ヤクが進めなかったからです。

ギャチュン・カンはネパールとチベット国境にある7952^{メートル}の難峰です。初め北東壁を目指したのですが、危険度が高く、第2登である北壁にしました。

10月5日、コックさんに5、6日で帰ってくるだろうと言い残しました。その意味は、それ以上たつて帰ってこなかったらネパールに帰ってもよいぐらいのもので、僕らはいつもの特別気負ったところもなく出発しました。

しかし、取付き付近で上空にいやな雲の発生と気圧の低下が認められましたが、アタックを中止するほどのことではないと思っていました。僕は暗いうちに出発します。雪が固くしまっていたほうが、体力を使わずに済むからです。また、僕は普通ロープを結び合うことはありません。というのは、

落ちたとき、お互いに巻きぞえになるのがいやなことと、スピードが鈍るからです。

7000メートル付近で2日目のピバーク。雪は50センチぐらいしか削れず、夫婦折り重なって寝ました。7500メートル付近でやっとともにテントを張ることができ、足の凍傷の手当てをすることができましたが、もはや妙子は顔がむくむほど体調が悪かったようです。

翌朝やっぱ吹雪でした。だが僕は出発しました。しかし妙子は途中で力尽き、テントに戻ることなり、僕は単独で、多分昼過ぎに頂上に立ちました。カメラは妙子を持っていたので、残念ながら写真はありません。

7500メートルに戻って1泊し、翌朝2人は下山を開始しました。ものすごい吹雪でしたが、僕らにはもう下りるしか選択の余地はありませんでした。1日かかって3000メートルの下降、岩棚にピバーク。さらに翌日、ついに大きな雪崩に遭遇、妙子の宙吊り、視力の減退、そして襲ってくる幻覚と闘いながら決死の脱出となりましたが、まさにぎりぎりの生還となりました。ギャチュン・カンでは本当にい

ろんな事がありました。僕は特別いやな登山とは思っていません。自分の技術、体力も精神力もすべて出し切って帰ってきたんです。むしろいい登山だったなあ、と今でも思っています。

ネパールで入院、そしてすぐに日本の病院で手術しました。凍傷は黒く、ミイラ化して痛くはないのですが、手術後はさすがに痛み苦しみました。そしてこのときは登山の中断も考えました。4カ月半の入院でしたが、2カ月後ぐらいから、ある日また山に戻りたいなと思うようになりました。そしてリハビリ登山を開始し、次第に回復しました。



「生還と復活」を語る山野井泰史氏

ポタラ峰との出会いは四川省に旅行に行った時、美しい北壁を目前にしてからです。僕はこれを復活のための第1戦にしようと思いついたわけです。

2004年、本格的にポタラ峰への挑戦を開始しました。そしてBCを3700メートル付近に設置しました。その翌日から雨で悪戦苦闘が続き、ついに登り切ることはできませんでした。再び厳しいトレーニングの末、本年7月、僕は再びこの北壁に挑戦しました。

私の山登り

—悔いのない山登りを目指して—

山田二郎

出発に当たっては、2年間、飼っていたクワガタを逃がしてやりました。帰って来れない可能性も覚悟したわけです。荷物は60キロぐらいいでした。

またも連日の雨と、全く日が当たらない北壁での厳しい寒さと落石に悪戦苦闘が続きました。

しかし、登り出して7日目、遂に僕は頂上稜線に抜けました。感動はしましたが、これで復活したとは思いませんでした。でも、何かステップを踏めたなと感じました。

私は昭和15年に慶応大学に入学、さつそく、山岳部に入学しました。慶応大学山岳部は今年で創立90周年を迎えました。その伝統は創立者の鹿子木員信教授の発案によって、全体主義、「重装主義」、デモクラティックな運営が守られてきました。

全体主義といっても、かつてヒトラーが独裁政治に都合のよいよ

うに利用した全体主義とは全く異なり、部員ひとり一人が役員になったような気持ちで部全体のことを考えて行動することを意味しています。

「重装主義」については少し説明が長くなりますから順序を逆にし、デモクラティックな会の運営についてお話しします。これは横さんと一緒に山においてになったこ



「私の山登り」を語る山田二郎氏

とがある方は多分、実感としても
っていると思うのですが、我々の
部では、初めてのテント生活で寒
さに震えている新人部員にリー
ダーが熱いコーヒーを作ってくれ
たり、また、荷物を背負うのもリー
ダーを含めて平等であって、リー
ダーだけが軽いリュックで重荷に
喘ぐ新人部員を後ろから追い上げ
るようなことは決してしませんで
した。

3番目は「重装主義」です。「重
装主義」というのは山という大自
然を相手にしているから何時どこ
で、どんなことが起きるかもわか
らない。そういう危険に対処する
ために、物心両面にわたって重く
装うことを意味しています。軽い
日帰りのハイキングでさえ、非常
食のコンデンスミルクをリュック
の底に用意し続けた三田幸夫さん
(旧代会長)の話も、その一例です。

私もコンデンスミルクの効用を体
験したことがあります。昭和17年、
関温泉でのスキー合宿で、バテた
部員に飲ませたら俄かに元気にな
ったことを覚えています。

慶応大学山岳部では、事故や失
敗に対する徹底した原因追及と検
討が行なわれました。私はこれは
事大主義ではないかと思ったほど
です。ハインリッヒの法則(労働
災害統計)にあるように、軽微な
事故を軽視すると大事故に繋がる
からです。例えば昭和15年の南ア
ルプスでの合宿では、昼食の弁当
は3分の1は残して、残りは目的
地が見えてから食えとも言われま
した。そのように「重装主義」を
事あるごとに詰め込まれました。

冬山の登山計画では、地域と季
節に応じて晴天の確率に従って食
料や燃料を実働日数の3倍とか4
倍用意するのはです。例えば冬の剣
岳は3日半に晴天は1日ぐらいい
かないと見て、食料は3・7倍と
考えます。私たちはそれを実行し
たので、少々の吹雪や悪天候にも
平気で対応することができました。
近頃ではそのような準備をするパ
ーティーはまれなためか、ちよつ
と吹雪いたり、ドカ雪に閉じ込め

られると、すぐに安易に携帯電話
などで救助を求めるのは以ての外
と言わざるを得ません。

この「重装主義」は必ずしも真
つ当ではないかもしれませんが、
そのくらい心の構えや余裕はいつ
も必要ではないかと思うわけです。
まあ、こういうふうに事大主義と
思われるくらい厳しくいろんな事
を教えられたことで、今日、83歳
になるまでどうやら無事にやって
こられた背景にあるのではないか
と思っています。

私の尊敬する先輩の一人に谷口
現吉さんという方がいます。後輩
に対して厳しい非常に熱心な指導
をされた方ですが、その方から、
「縦から切っても、横から切っても
悔いのない山登りをしなさい」と
厳しい指導を受けたことを、未だ
に鮮明に覚えています。その意味
するところは、山登りだからもち
ろん「頂上に達することは大切だ
が、それにも増して問題なのはそ
のプロセスであって、誤魔化しや
僥倖に頼った山登りは、立派な山
登りとは言えない」ということで
す。

でも、私にもいくつかの失敗例
があります。昭和17年、冬の北鎌

尾根、初登攀をしたあと雪洞から
トラバースの危険、またガネッシ
ユ・ヒマールでの雪崩、そして先
述のヒマールチュリでの雪崩事故、
そしてマナスルでのC6の位置の
選定などです。それから12月の裏
妙義の滑落、下に滝があつたので
横つ跳びで何とか助かりましたが、
危ないところでした。

山登りは安全性の限界に挑戦す
るスポーツと言う側面を持ってい
ます。安全性の限界ギリギリまで
挑戦して無事に頂上に達し、安全
に下山して初めて完璧な山登りと
言えるのではないのでしょうか。大
勢で山に登っていると、知らず知
らずのうちに危険を見逃してしま
うことがあるが、これは厳重注意
の必要があります。

今日、山岳会100周年を迎え、
登山界も大変な様変わりをしてい
ます。先ほどの山野井さんの写真
を見ると装備も非常によくなつて
います。そして山登りの形態もさ
まざまです。

しかし、大自然として、山が山
であり、人間が人間である限り、
登山の危険が減ったわけではない
ことを強調したいと思います。

創立100周年を迎えた日本山岳会 百周年を祝う

記念式典祝賀会には、来賓として海外から多数の出席者があった。その中で、アメリカ山岳会とカナダ山岳会の会長にインタビュースし、抱負を語ってもらった。

アメリカ山岳会会長

マーク・リッチー氏



マーク・リッチー氏

マークさん夫妻が100周年祝賀晩餐会に来賓として出席してくれたのは、大変意義深いことであろう。彼のスピーチは充実した内容で、事前にJACCのことをよく勉強してきた事が感じられた。

日本山岳会、日本の登山界とアメリカ山岳会(AAC)との関係にはそれなりの節目があった。京都大学士山岳会のチョゴリザ遠征、故・吉沢一郎さんとアメリカン・アルパイン・ジャーナル(AAJ)の名編集長であった、A・カーターさんとの親交、若手の口

ッククライミング・グループの来日、ヨセミテ「キャンプ4」修復での日本人クライマーの献身的な協力、筆者のAAC年次総会での講演などである。その舞台回しを常に担ってくれたのが、アメリカ登山界の重鎮AAC元会長のニコラス・クリンチさん(ヒドン・ピーク、マッシュャーブルム、崑崙ウルグ・ムスタークを初登頂)であった。マーク・リッチーさんは、そんな関わりを持つAACの現会長である。

Q 日本山岳会とアメリカ山岳会を比較して、印象はいかがですか。

A 式典と晩餐会の総合司会者の神崎忠男さんは、クラブ創立がほぼ同じ時期だったアメリカ山岳会(1902年創立)、日本山岳会(1905)、カナダ山岳会(1906年)を世界の山岳会の3兄弟ととうまい表現をしましたが、そんな

関係を続けたいですね。AACの歴史は浅いが、登山に関しては少し先輩です。国際政治にたとえれば、JACCはAACと日米同盟を機軸にした戦略的パートナーでありたいと思います。AACは10年前に本拠地を東部のニューヨークから中部のコロラドに移してから門戸を開放して大衆化を図り、会員は増えて現在は7200人です。平均年齢(45歳)は高くなりつつあり、若い人が入会しないのが悩みです。それでもJACCの平均年齢(64歳)に比べるとずっと若いですね。支部の活動も国際的です。若い人が入会しないのは本家の英国アルパインクラブも同じで、クラブ運営の共通の課題なのです。JACCとの違いのひとつは、クラブの提供するサービースに比べて会費が安いことです。年会費はJACCの1万2000円に対し、AACは65ドルです。AACはお金集めが上手です。また、AAC会長の年齢はおおむね40代です。

Q マークさんは第一級の現役クライマーですが、これまでどんな登攀をしてきましたか。

A 私は1973年、15歳のときマサチューセッツで岩登りを始め

ました。そして、2年間でヨセミテのエル・キャピタンのノーズ、ドリユーのダイアモンド東壁とアメリカン・ダイレクトを登りました。以来、世界の山岳において、長く技術的に難しいアルパイン・ルートの登攀と探検的登山に取り組みました。ペルーのカエッシュ東壁とコルディエラ・ブランカのチャクララフ南壁の初登攀、ガルワールヒマラヤのシプリン東稜の第2登、エヴェレスト、パタゴニアの難峰セロ・トーレ、アイガー・マッターホルン・グランドジョラスのヨーロップ3大北壁も登りました。グリーンランドではボニントン隊に参加し、3つの初登頂をしました。2001年には、C・ボニントンとH・カパディアに同行してインドとカラコルムの6000m峰を初登頂しました。

Q 祝賀会と翌日の日光散策では、何が印象的でしたか。

A 祝賀会では皇太子殿下と親しく話ができたことです。また、同じ建築関係の仕事を持つもの同士ということで、平山会長とも話が弾み、晩餐会のメインテーブルは良い雰囲気でした。

翌日は、松原尚之さんのガイド

で小川山で岩登りを楽しむことができました。若手クライマーと登りたいという私の希望をかなえていただき、嬉しく思います。日光からの帰りのバスの中では歌を指名され、「労働者の歌」を歌いました。私の父は労働組合の仕事に生涯携わっていましたから、この歌は自分のファミリーの歌だと思っています。

インタビュと文Ⅱ中村保

カナダ山岳会会長

キヤメロン・ロウ氏



キヤメロン・ロウ氏

Q 日本山岳会の記念式典と祝賀会はいかがでしたか。

A カナダ山岳会は来年100周年を控えていますので、細かいところまで注意深く観察しながら参加しましたが、大いに参考になりました。多数の人々が参加して盛大な素晴らしい催しで、よくオーガナイズされていると感心しまし

た。さぞ大変だったことでしょう。ロビーに100年の歴史を写真パネルで展示してあり、とても良い試みだと思いました。私たちもカナダ山岳会の歩みを写真で展示したいと思っています。

Q カナダ山岳会100周年記念行事のご予定は。

A 1年がかりでいろいろなイベントをやります。もっとも大きな催しは06年10月12～14日にバンフでUIAA総会を開催し、最終日にはさよならパーティーも兼ねて記念祝賀会を行います。カナダ山岳会の役員や会員のほか、他国の山岳会もご招待し、参加者は500～600人くらいと考えています。

記念パーティーの日は、カナダの首相が出席できません。それで、首相の都合の良い3月25日に、ウイニペグでカナダ山岳会だけの100年記念パーティーを開催します。なぜ山のないウイニペグでと思うかもしれませんが、ウイニペグは鉄道の起点なのです。100年前の登山者はそこから列車で目的の山へと出かけたものです。横さんも鉄道でロッキーマン入られたのではないのでしょうか。当時を偲

んで開催地としたのです。

また、100年前カナダ山岳会初の公式登山を行なったバイスプリデント山へ、記念山行をします。ヨーホーに6週間のロングキヤンプを張り、たくさんの人に参加してもらう予定です。

その他、100周年記念誌の編集も始めています。会報は年1回発行している『アルパイン・ジャーナル』と、1年に3回発行している20ページ程度の『ニュースレター』があります。まずは、100周年の歴史を特集した70ページの『ニュースレター』を作っています。

Q 会員数と各支部の活動、会の特典についてお聞かせください。

A 会員数は約6000人ですが、家族会員も合わせると1万人くらいでしょうか。会員は、ロッキーマン脈のある西部に偏っています。年齢は個人情報保護のため調べていませんが、若い会員が多いです。広いカナダには19の支部があり、それぞれ支部単位で活発に活動しています。年に2度行なわれる総会は、各支部持ち回りで、いろいろな地域で開催し、公開討論で一般参加も認めています。

会にはいくつかの特典があります。

まず山岳会で所有している23の山小屋が安い料金で使用できること。山岳保険に加入できること。また、毎週末、山岳会主催の登山が計画されていて、参加ができることなどです。一般の人（会員外）は、自由にハイキング等はできませんが、クライミングなどの岩や氷河を登るルートへは勝手には登れません。だから、カナダ山岳会に入会して登るチャンスを得るのです。カナダ山岳会はクライマーの集団ですから。

Q カナダ山岳会として、海外遠征の計画はありますか。

A カナダ山岳会としては海外遠征の計画はありません。1980年代には大きな遠征隊をヒマラヤに送りましたが、カナダには良い山がたくさんありますし、まだまだ未踏のピークやルートが多数残されています。特に北西部のヌニヴィット州にあるバフィン島には素晴らしい未踏の岩壁が多数あります。多くの人々が押しかけて混雑しているヒマラヤへ遠路はるばる行くより、国内の未踏の山に眼を向け、国内の登山活動を活発にしていくつもりです。

インタビュと文Ⅱ本木總子



屏風山からの分水嶺を下る

とにする。無雪期、13回にわたって10箇所のポイントすべてを踏査した。後は、これら点から線に繋ぐべく積雪期を待つこととなった。

降雪が治まった2005年3月19日、旧根尾村上大須ダムから入山。左門岳を経て左門岳の肩に幕営した。翌日2隊に別れ、屏風山～井岸山まで踏査した。A隊：大庭、織田会員は幕営地6時10分出発。湿雪に足をとられながらアップダウンを繰り返し、井岸山往復。15時帰営した。B隊：西嶋、前川、岡本会員は6時5分出発。11時55分屏風山着。更に進むが、複雑な尾根に迷いながら、急斜面を2ピッチ懸垂下降で下りたところで引き返す。朝方からすっきりしない天候であったが、17時過ぎから徐々に風が強くなり雪が舞いだした。風雪は更に強くなり雷も鳴りだす。ヘッドランプの明かりを吹雪がかき消す中、21時、帰営する。

残る屏風山西側を踏査すべく4月22日、笹生川ダムから入山した。中高山を経て中高山の肩から左右に分かれて踏査を実施。A隊：大庭、前田、前川、岡本会員は藤倉谷の頭に幕営。翌日、屏風山を往復(1ピバーク)する。B隊：西嶋、織田会員は蠅帽子峠で幕営。翌日、刈安山往復の後、蠅帽子川を下る。C隊：澤村、埴崎、中川会員と大庭(妻)は中高山の肩までサポート。今回の踏査には積雪がほとんど残っておらず、藪漕ぎを強いられたが、会員の連帯感と使命感、そして何よりも分水嶺踏査を完遂しようという強い意志によって踏査を完了することができた。(岡本明男)

京都支部

「ロマン」と「ゲーム」としての分水嶺

京都支部は京都府と滋賀県の分水嶺を担当し、福井県境の大御影山(950m)より、兵庫県境の三国岳(508m)までを踏査することとなった。

2004年4月に三国岳をスタート、月1回支部例会のかたちで15回実施し、2005年7月、無事終了することができた。参加者は会員35名、非会員11名、延べ231名であった。期間中雨で中止となったのは1回のみ、後は天候にも恵まれ順調に線を伸ばすことができた。第2回(2004年6月)からは大御影山より南下し、小野村割岳を中間点とした。第9回(2005年1月)以降は冬季の積雪を避け、観音峠から北上し、小野村割岳(932m)が終了点となった。

周知のとおり、近畿地方の北中部より北東部は重畳とした山並みが続くが、険しい山岳地帯ではない。標高も踏査区間は1000m以下の山嶺で、里山を繋ぐ部分が多く、気負い立つことはなかった。大御影山より三重嶽、百里ヶ岳、三国岳(三国峠776m)間はブナ林が美しく、演習林の外縁である三国岳から海老坂は台杉やモミ(ツガ)の巨木に感嘆した。海老坂と園部の三国岳間はやや複雑な地形を含み、区間最低地の日吉平(205m)を通過した。全行程とも、径、踏跡、切り開きに助けられ、藪に苦労した部分は少なかった。

若狭湾に注ぐ北川、南川、琵琶湖に流入する石田川、安曇川に始まり、由良川と大堰川などを分ける山嶺を歩く企画に、筆者は「ロマン」を感じ、全行程に参加した。主目的の「計測」もさることながら、忠実なトレースの必要な踏査に「ゲーム」としての面白さが加味された。そのため、直下に林道が敷設されている区間も、あくまで分水嶺にこだわった。

最終回には斎藤元会長も参加され、小野村割岳で横田支部長の音頭で、ささやかな乾杯をあげたが、お祭りの終わりに、メンバーは安堵と一抹の寂しさを感じたようであった。

磯部リーダーと車の移動・回収を引き受けてくれたサポート隊に深く感謝したい。(横田和雄)



支部の最終踏査となった小野村割岳で



中央分水嶺踏査

踏査率：79.3% (2005.10.1現在)
(山行報告未提出分を含めた実質的踏査率は90.5%です)
延べ743日、3708人参加

青森支部

津軽半島に行く

当初、竜飛崎から発荷峠までの70kmが青森支部の担当だったが、岩手支部の要請でさらに四角岳まで延長することとなった。担当区域を3分割し、弘前地区会員は竜飛崎から津軽半島中央部、青森地区会員はそこから南八甲田横岳付近、残りは八戸地区として計画をたてた。

2005年2月26日午前8時、会員3名が1週間の予定で竜飛崎をスタート、階段国道を経て国道339号と併走する分水嶺をスキーで南下、シールの不具合と灌木の密生で距離が伸びずピーク488m付近でビバーク。翌27日は風雪が激しくシールがこのままでは無理と判断、矢形石山を越えてから陸奥湾側に下山を決定。山中に1泊し、28日12時30分、海辺の算用師部落に到着。

2回目は3月21日、会員2名で踏査開始。雪面が固くなったのでスキーがよく滑り、前回の終了点には10時30分到着。半島第2の高さの増川岳を左に見て、アップダウンを繰り返し、四ツ滝山に15時着。30分ほど進んだブナ林の中をビバーク地とした。翌22日、品岳分岐付近から、ブナ林から杉、ヒバを加えた林へと変

わり、標高も低くなったため、針葉樹の若木が密生、距離が伸びず7km程進んだだけだった。随所に津軽半島縦貫道建設の測量標識がブナの立木に打ち付けてあった。23日は玉清水山までの予定であったが、筆者の親戚に不幸があり、途中で下山することになった。

3回目、前回の終了点の県道12号には、4月2日7時着。袴腰岳には14時着。日本海からの強風のため山頂には雪が無く、今回の踏査で三角点が確認できたのはここだけである。この日は赤倉岳分岐付近でのビバーク。翌4月3日、夜半からのミゾレとガスのため11時出発。急登に手こずったが大倉岳12時着。十二岳を経て16時にはビバーク。

4月4日は朝から晴天に恵まれ、7時40分発。最終地点の県道と分水嶺が交差している所までは人工林地帯で半日の行程である。苦労はあったが、クマタカの飛翔、クマゲラのドラミング、採餌木の確認など山行を楽しむことができ、最終地点には13時着。今回本州北端からの中央分水嶺踏査の一区間をトレース出来たことを嬉しく思った。

(清野 宏)

石川支部

風雪の中15時間

石川県には中央分水嶺が通っていない。このため、福井支部を応援して、両白山地の井岸山から温見峠までの26.6kmを分担することとなった。両白山地は福井県と岐阜県の県境を走っている山域だが、その大部分には道がなく、アプローチも不便で長く、取付の困難な地域である。しかも稜線上には灌木と笹が密生していて藪漕ぎを強いられる所でもある。

2004年4月18日から本格的に踏査を開始した。この区域にはW088～W097まで10箇所のポイントが設けられている。このポイントを1つずつ押さえていくこ



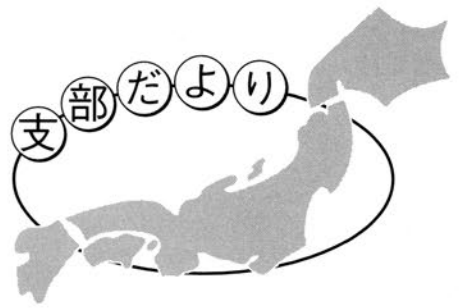
本州最北端の竜飛崎で

信濃支部

第9回ミセス・ウェストン祭

8月6日～7日、エミリー・ウェストン(会員番号728)が、1904(明治37)年8月、外国人女性として初めて、夫ウェストンと共に戸隠山から高妻山に登頂した功績を讃える、第9回ミセス・ウェストン祭が、戸隠高原のミセス・ウェストン記念碑前で開催された。

思えば、平成8年10月、豊田市美術館で開催された写真展「ウェストンの見た明治・大正の日本」の中に、戸隠山の「蟻ノ門渡り」に立つミセス・ウェストンの写真



全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとリポートします。



ミセス・ウェストン記念碑にて(信濃支部会員)

を金子玲子会員が見つつけ、戸隠村の横川欣一村長に見せたところたいへん感激され、平成9年8月3日に第1回ミセス・ウェストン祭が開催された。

今年1月、戸隠村が長野市に合併し、今回から戸隠観光協会とガールスカウト日本連盟が主催者となった。その碑前祭には、信濃支部会員5名を含む約100名近い参加者が集まった。

式典は、10時から始まり、イギリスと日本の国旗が掲揚された。その後、来賓により次々と記念碑に献花が行なわれた。ミセス・ウェストンを偲び、白石みさよさん作詞の「遥かなりミセス・ウェス

トン」をガールスカウトが献歌した。

主催者を代表し、戸隠観光協会の西善秀会長は「豊田市美術館とイタリア国立トリノ山岳博物館が共催した写真展で見つかった、戸隠山蟻ノ門渡りに立つミセス・ウェストンの1枚の写真からこのイベントが始まった」と経過を報告し、「戸隠の自然の素晴らしさを知ってほしい」と挨拶された。

来賓祝辞に続いて筆者が、「日本山岳会とウェストンの関わり」と題し、「ウェストンが出版した『日本アルプス 登山と探検』が日本山岳会の設立に深い関係があった」と、「小島烏水と岡野金次郎が横浜に在住していたウェストンを訪ね、イギリスにあるようなアルパイン・クラブを日本にも作つたらどうかとアドバイスを受けたこと」などを披露した。

式典終了後、参加者は戸隠ガールスカウトセンターに移り、ガールスカウト手作りの料理で昼食会が開催された。戸隠太鼓の演奏や野外コンサートなどで戸隠の自然を満喫した。

地元会員による懇親会は戸隠小舎へ移動して開催された。佐々木

徳雄会員の歓迎の挨拶と、早乙女緩次会員の乾杯に始まり、初参加の松林のり子会員から、感想と近況報告など山麓清談が続き大いに盛り上がった。

7日は記念登山が行なわれた。参加者は地元ガイドの先導により「高妻山」、「飯綱山」、「植物園周辺散策」の3コースに分かれ、ウェストン夫妻に想いを馳せた。

(金子誠吾)

東海支部

100周年記念 第8次インドヒマラヤ登山隊2005

7月10日～8月17日、総隊長の寺西申生(64)率いる登山隊は、高所順応を中心としたタクティクスのもと、6000メートル峰に挑戦し、それぞれに成果を上げた。

キャラバン

目指す山々は、中国との国境に隣接し、軍事上の国境線(インナライン)上のため、登山許可がなかなか出ず、出発の5日前にようやくビザが発給された。

7月23日、キパール(4200



8月2日、6206m無名峰頂上にて(左・正田、右・野呂)

(トール) から48頭のポニーに隊荷を積みキヤラバンをスタート。2日目のドウムラを過ぎると無人の荒野となる。3日目のタルタ(4800トール)から荒々しい岩溝を一気にパリルンビ川まで400トール下る。深いゴルジュを遡りボロゲン(5100トール)を目指す。荒涼としたカール跡で、いつも水に苦労する泊まり場だが、今年は残雪が多く良い水が流れていた。

4日目、難関のパラン・ラを越す。標高に加え、峠直下のガレ場、氷河上の雪にポニーが足をとられ長い1日になった。氷河舌端近くの5200トール地点にBCを設営した。

6206トール無名峰初登頂
2003年の偵察では、北面より接近しルートを確認したが、アブローチが長かった。それで今回はラカンカ河を西へトラバースし、東面から頂上を目指すことにした。氷河は平坦でクレバスも無いが、油断していると、氷に隠れた流れに足をとられてしまう。

ダウン峰(6200トール)登頂
7月28日、6206トール隊と別れ、パカシ・ラムール川左岸の5200

8月2日早朝、ACを出発、頂上に続く雪のルンゼに入る。固定ロープを張って約150トール登ると頂上に着いた。快晴の頂上から、6000トール峰が波打って連なる360度の展望を楽しんだ。1997年に初登頂したクラー(6546トール)も確認できた。技術的にはやさしい山だったが、展望に満足してACに戻り、そのままBCまで帰った。



ACより望むダウン峰(6200m)北面

0トール地点にBCを設営。氷河左岸のモレーンに5450トールまで登りラカン峰を確認した。31日、BCからAC予定地までの距離が長い。ため、氷河舌端にBCを移動した。

8月1日、氷河舌端の右側から4時間ほど登り、右岸のダウン峰直下のモレーンに荷物をデポした。当初の目的のラカン峰は、ここから見上げると、予定ルートの西稜上部に北壁からのクレバスが続いている。雪崩の危険とあわせて、全員登頂は困難と判断した。隊員、高所ポーターの意見を集約し、全員登頂可能なダウン峰に転進を決めた。

8月3日、ダウン峰直下5600トールにACを設営した。

8月4日、4時に出発。氷河を

つめ、北壁直下に着くと明るくなってきた。急な雪壁の固定ロープを数ピッチ登ると稜線に出た。傾斜のゆるい長い雪稜をたどるとダウン峰の頂上だった。11時に全員登頂。快晴の頂上からの展望を楽しんだ。

(水野起己)

【6206トール無名峰隊隊長・鈴木常夫(70)、隊員・野呂邦彦(64)、正田緑(50)、学術隊員・山中光子(58)、ダウン峰隊隊長・水野起己(54)、登攀隊長・柳原徳太郎(58)、隊員・水野和博(58)、三浦たか子(62)、金田記代子(54)】

ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
(国土交通大臣登録旅行業1167号)



東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋千種区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422

パキスタン北部地震救援のお願い

長谷川昌美

「フンザのハセガワ・スクールは大丈夫ですか？」

10月8日にパキスタン北部を襲った地震に際しては、大勢の方々からご心配をいただきました。

マグニチュード7.6というかつてない規模の地震は、首都イスラマバードの北約120^キ、ムザフラバード付近が震源地だったため、フンザは距離的に離れていて地震による被害はありませんでした。

しかし震源地を中心とする山岳地帯では、家屋の倒壊によつて7万8000人の方々が亡くなり、負傷者も7万人を超えたそうです。厳寒の冬を迎えて、地震を生き抜いた300万人の人々が家を失い、仮設の避難所、テントや毛布、医薬品を緊急に必要としています。

100周年記念祝賀会に出席したパキスタン山岳会ナジール・サビール会長からの要請により、日本山岳会では被災者救援の募金を行なっています。

ナジール会長は、パキスタン・ヒマラヤの8000^{メートル}峰のサミッ

ターであり、またパキスタン人として初めてエヴェレストに登頂した国際的に著名な登山家で、昨年よりパキスタン山岳会の会長に就任しました。

私の夫・長谷川恒男は、1991年秋、フンザにある当時未踏の7000^{メートル}峰ウルタルで、雪崩により死去しました。ナジール会長はその登山隊のメンバーでした。

副隊長として同行した私は、B Cに墓を設け、遺体を埋葬しました。またナジール会長の協力で麓の村カリマバードに「ハセガワ・メモリアル・パブリック・スクール」を創設しました。学校建設は日本山岳会会員や多くの山仲間が寄付で行なわれ、現在は、幼稚園からカレッジまでの教育過程を含む地域一貫教育校になりました。

イスラマバードから北上するカラコルムハイウェイが大きく曲がり東にコースをとる、峠の手前のマンセラ地域も広範囲にわたって被災し、山村から都市バトグラムへ大勢の被災者が歩いて避難して



土砂崩れのカラコルムハイウェイ

きています。余震は1000回を超えるほど頻発し、そのため被災地では破壊がさらに進み、土砂崩れなども生じています。急峻な山岳地帯に住む多くの人々が、家族や親戚、友人を失い、孤児がとり残されました。

パキスタン軍は、地震直後から、公的私的な国際援助機関に支えられて救援物資を送り出しています。しかし被災地域へのアクセスが困難なため、救援活動を阻んでいるのも事実です。

ナジール会長によれば、ヘリコプターでは輸送しきれない小さな村々へは、結局、馬やロバ、ラバといった家畜を使つての輸送手段しかなく、しかも数日歩かなければテントや毛布、食料を直接手渡すことができません。ボランティア

アによるこうした輸送の際、山岳ガイドが何よりも必要とされます。そのためパキスタン山岳会を中心に、各旅行会社のツアー・オペレーターたちが協議し、山岳ガイドが派遣されました。また世界中の山仲間にもわけて、緊急の援助要請も行なわれています。

救援金は、日本山岳会でまとめ、パキスタン山岳会に送金いたします。またパキスタン山岳会はパキスタン観光省と協力し、みなさんの善意を被災者にお届けいたします。ご協力をお願いいたします。

【受付方法】郵便振替

【口座名義】社団法人日本山岳会

【口座番号】00130-1-4239

【締切】平成17年12月26日

【通信欄の記載】

*振替用紙の通信欄に「パキスタン救援金」と明記してください。
*日本山岳会会員は、会員番号も明記願います。

【振替手数料】本人負担でお願いいたします。

【領収証】発行出来ませんので、振替票を領収書の代わりにご利用ください。

東 西 南 北



オオヒラウスユキノソ

イラスト・倉岡啓吉

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

中央分水嶺踏査(番外編) 青函トンネルを歩き抜ける

柳下棟生

50年このかた、こつこつと日本国内を山に限らず、徒歩や自転車踏査し、この自力エネルギーによる軌跡を結ぶことを生きがいにしてきた。だが本州と北海道の間には津軽海峡があり、どうしてもこの間の軌跡を結ぶことができない。昭和63年に津軽海峡線が営業開通したので、いずれトンネルウォークが開催され、歩く機会ができるのではと期待が高まった。しかしその機会もなく、悲願を果たせずにいた。

ところが、「北海道新幹線着工記

念青函トンネルウォーク」をJR

北海道が主催することを偶然聞きつけ、早速エントリーした。当初は喜びに耐えなかったが、一生に一度の待望の機会を、いじわるな神様の邪魔が入らぬかと、心配になったりもした。某有名旅行社が催行していて、催行人員は当初20名であった。

ついに催行の日となり、前日の8月20日に空路函館に飛んだ。空港で母親の死去の知らせを受けたが、親不孝ながら行動を続行した。母親からの最後の贈物と勝手に解釈した。

北海道の中央分水嶺は最南端の白神岬で、本州のそれは龍飛崎で津軽海峡に没す。氷河期には、この両岬を結んで山脈が走り、ナウマン象が往来していたそうだ。海水が乾しあがるとすれば、この山

脈はまさに日本の中央分水嶺となり、青函トンネルはこの山脈に沿って走っていることになる。それならば、中央分水嶺踏査の番外編として、日本山岳会の踏査軌跡が連続する点からも意義かと考えた。

北海道側は地表の吉岡斜坑口から入り、海底では列車の走る本坑と並行に走る作業坑を歩き、再び斜坑を経て青森県龍飛崎の地表の斜坑口に出た。約25^キ、5時間のウォーキングであった。これで、北海道と本州の両地表間に踏査軌跡が完全に結ばれた。

当日の踏査では、まだ白神岬と吉岡斜坑口、および龍飛崎と龍飛斜坑口の間の踏査軌跡が未通なので、9月20日、21日と再度この地を訪れ、未通部分を綿密に踏査し万全を期した。

ここまでくると酔狂の域かなとも思う。両日とも対岸の国土がはつきりと相互に眺められた。そして、この間に青函トンネルの存在を認識し、関係した多くの方々の崇高な意思を改めて感じ、たいへん感動した。私としても独りよがりな念願が果たせて、うれしく感じた次第である。

日本山岳会創立百周年記念出版



◎JAC会員特別割引期間
締切せまる!

日本全国四〇〇〇山
の情報を網羅!

好評発売中!!

新日本山岳誌

日本山岳会・責任編集

菊判(1992頁)上製/クロス装/カバー掛け/函入り 定価18,900円(税込)

択捉・国後など北方四島の山から、南西諸島の山々まで、日本全国の山に登った、撮った、調べた、そして書いた。日本山岳会の全国25支部約500名が総力をあげて編集執筆にあたった最新・最大の山岳百科がついに完成!

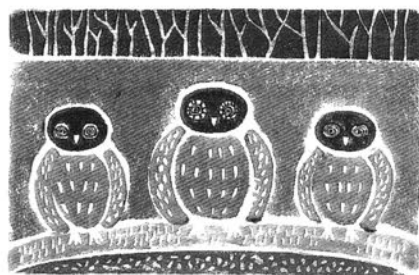
△推薦のことは△

日本山岳会二代会長高頭式氏による「日本山岳誌」から百年、山岳の現況を記述し後世に残すべく、百周年記念事業として本書ができました。
日本山岳会会長 平山 善吉

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15番地
Tel.075-723-0111 Fax.075-723-0095
URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

図書紹介



幸せを呼ぶ鳥 版画・奥野溪石

『黒部別山—積雪期—』

黒部の衆・著



2005年3月
黒部の衆
671頁
定価7140円

「伝説のあの本」の続編が、19年ぶりに出版されたと言ったら、ちょっと大げさか。「あの本」とは『黒部別山』。ひと頃、若いクライマーたちが、インターネットの掲示板で「あの本、知ってる？」と話題にしていたことがある。

まず、黒部別山を知らない人も多いだろう。黒部ダムからも見え

るが、一般ルートはない。ところが一見して地味なこの山が先鋭的（見方によってはマニアック）なクライマーを魅了してやまない。それが著者の「黒部の衆」なのだ。

この黒部の衆、代表は大野明（直登会）、主なメンバーは関東では酒井國光（昭和山岳会）、渡辺斉（武蔵之國山岳会）、丸山隆司・石井孝行（チーム84）、関西では近藤未知男（補陀洛山の会）、和田城志（サンナビキ同人）、伊藤達夫（京都てつじん山の会）など、そうそうたる顔ぶれである。

彼らが中心になり、「黒部別山および剣沢大滝周辺」「大タテガビン南東壁」「黒部丸山」のさまざまなルートの積雪期の登山記録を集めたのが本書。また報告部分の他に、アルピニズムの変遷とこの山域とのかかわりを検証した「総論」と、「黒部雪語り」と題した18編のエッセイが加わり、読み応えのある本に仕上がった。

社会人、職域、大学などの山岳会の枠を超え、心から『黒部別山』を愛する熱い心が伝わってくる。

『黒部別山』はなんと幸せな山であり、幸せな本であるうか。

（三好まき子）

『地の果てに挑む』

村山雅美・著



2005年6月
東京新聞出版局
四六判 256頁
定価1575円

本書は2004年9月1日から翌05年1月28日まで東京新聞、中日新聞に50回にわたり、「この道」と題して連載された村山雅美さんの自叙伝である。

村山さんは昭和31年に始まるわが国の南極観測の始まりから参加し、観測隊長4回、越冬隊長3回務めた重鎮のひとりである。その経歴から5章で構成される本書のうち、3章は南極観測との関わりに当てられている。

村山さんは大正7年生まれ、今年87歳の高齢であるが、今も矍鑠（かくもく）とされているのは旧制松高山岳部、東京帝大スキー山岳部での山行三昧の青春とは無縁ではあるまい。

昭和16年に大学を卒業後、海軍予備学生として海軍に入り、終戦にいたる海軍生活は第1章に描かれている。おそらく現実には厳しい

時代と思われる当時の生活も人生快樂派たる筆者にかかると楽しい青春の一幕となっている。

戦後は会社勤めのかたわら、あるいはそちらが本業やもしれない日本山岳会の再建につくされ、マナスル登山隊（第1次、2次、3次先遣隊）へ参加された顛末は第2章に詳しい。マナスル登山の内面史としても価値ある1章である。

マナスルのアイスフォールキャンプで、山崎英雄氏（北大OB）から耳にした国際地球観測年での日本の参加に関する情報は、筆者のその後の人生に大きく関わることになる。昭和30年暮れ、西堀栄三郎氏から南極観測参加の誘いを受けた村山さんは「飛んで火に入る夏の虫」のごとく、南極観測隊計画に参加、その実現に尽力されたのである。

南極との関わりは第3～5章以降に詳しく述べられ、特に第3章はわが国南極観測発足時の内面史としての価値が高い。

南極観測50年を来年秋に迎える今日、本書は時宜を得た出版であり、また不世出の探検家の人生を垣間見る良き機会である。

（渡辺興亜）

『白馬岳の百年』

菊地俊朗・著



2005年7月
山と溪谷社刊
四六判 237頁
定価1680円

白馬岳山頂小屋（現在の白馬山荘）は、明治38（1905）年に、測量小屋の権利を白馬村の松沢貞逸が入手して、営業を始めたものという。折しも日本山岳会の発足など「近代登山」の勃興期にあたっていた。

本書は大正初期から昭和の始めにかけて、白馬尻、柵池、白馬大池などに次々と山小屋を建設して、登山の興隆とともに事業を拡大していった、やまき旅館（現在の白馬館）の100年を軸に、白馬岳を中心に後立山連山の登山史、スキー史や山麓の村の暮らしの変遷を辿っている。我々他所からの登山者や旅行者の知らなかった歴史や事実が散りばめられている。

河野齡蔵の写真で知られる「着莫座」を羽織って大雪溪のお花畑に行く女学生（本書カバー）のよ

うに、白馬岳は槍・穂高よりも女性、子供の登山者が圧倒的に多かったことから、山案内人の需要が多く、山案内組合が早くから組織されたという。その伝統から、地元の若い世代のガイドが春山のスノーボード、山スキーツアー、自然観察ツアーなど新しい需要の掘り起こしをしているという。

最終章「アウトドア、日本一の村へ」では、若い登山、スキー客が減少している山麓の町や村の、「新しい白馬の過ごし方」田園観光「展望観光」など、さまざまな分野の興味性を加えた多様なレジャーの開発、模索ぶりを紹介している。

(松沢節夫)

永田秀樹・編

『山の遭難 生きた、還った』



2005年2月刊
東京新聞出版局
A5判 191頁
定価1680円

誰もが遭難などしたくはない、したくもない。しかし、山の事故は不可抗力のように登山者を襲う。

そして遭難してからがその人の本当の登山の力を試されることになる。持てる経験と知識を総動員していかん生きて還るか。本書は遭難という過酷な状況の中から、危機を乗り越えて無事に生還してきただけな事例を取り上げた、『岳人』の連載をまとめたものである。

第1章「生きた、還ったケース12」では、事故に遭った当事者が真摯に記録した12例が報告されている。ここには過酷な山中で生き残る知恵とヒントが網羅されている。トラブル発生後どのように行動し対処したのが具体的に記録されていて貴重である。そして各事例の最後に「生のポイント」が述べられ、その対策のページに導かれて有益である。

第2章「山のセルフレスキューの秘訣18」では、他人の助けが期待できない山の中から自力でどうしたら生還できるのか、その要点がまとめられている。生還してきただけな事例に幸運だったわけではない。冷静・沈着に状況を把握して事態に対処できるだけの危機管理能力と技術が備わっていたのだ。

編者は「計画書」を作り、登山をイメージすることが重要であり、

自力で何ができるのだらうと想像してみることから「セルフレスキュー」が始まるという。そして事故に遭ったらNASAの3つの言葉、Severity(どのくらい危険なのか)、Urgency(どのくらい急いで対処しなければならないのか)、Growth(危険は拡大しているのか)から、危機管理の基本を思い出してほしい。

どんなに自然に抗つても事故は起きるが、防ぐ努力をしなければ、さらに際限なく起こる。事故を防止するためには本書は極めて具体的に有用である。(絹川祥夫)

JALチャーターで行くアラスカ

北極圏ベツルスロッジ滞在とフェアバンクス、チナ温泉6日間

●旅行代金: ¥384,000~¥398,000

●出発日: 1/2、1/24、2/21 ●発着地: 成田

北極圏内にある人口50人の小さな村ベツルスに2連泊。



国土交通大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 札幌店保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

100周年記念事業

会員募金並びに有志募

金の御礼とご報告(7)

募金委員会

左記の企業、会員より募金をお寄せいただきました。企業名、会員名を記載し御礼とさせていただきます。

1. 企業募金 (4社)

松下電器産業(株)、アサツーディ・ケイ、GIIテクノ(株)、(財)伊藤医薬

学术交流財団

2. 有志募金

5万円以上 (3名)

古屋学而、平田大六、石橋正美

3万円以上 (2名)

田中昭男、我妻誠

1万円以上 (2名)

森川洋佑、高木徹

3. 会員募金

9千円 (10名)

井上博、芦川潤、逸見征勝、福田

智恵子、窪田升二、亜厂文代、白

木博信、松岡榮一、平間操、室省

二郎 (敬称略、10月末現在)

図書受入報告 (2005年10月)

著 者	書 名	ページ・サイズ	出版元	出版年	寄贈／購入別
日本山岳会資料映像委員会(編)	写真で見る日本山岳会の100年	35pp/24cm	日本山岳会	2005	当会発行
雁部貞夫	氷河小吟——雁部貞夫歌集(新現代歌人叢書 No.9)	117pp/19cm	短歌新聞社	2005	著者寄贈
全日本山岳写真協会(編)	山稜2005——2005年全日本山岳写真展作品集(撮影地図付)	209pp/22cm	全日本山岳写真協会	2005	発行者寄贈
沢木耕太郎	凍(とう)	300pp/20cm	新潮社	2005	出版社寄贈
石原裕一郎	ネパールピークハントトレック ベスト53——ヒマラヤ登山あなたの番	175pp/21cm	山と溪谷社	2005	著者寄贈
志水哲也(編)	山と私の対話(達人の山旅 No.1)	235pp/20cm	みすず書房	2005	出版社寄贈
高桑信一(編)	森と水の恵み(達人の山旅 No.2)	259pp/20cm	みすず書房	2005	出版社寄贈
日本山岳会(編)	新日本山岳誌	1974pp/23cm	ナカニシヤ出版	2005	出版社寄贈
日本山岳会医療委員会	山の救急医療ハンドブック	159pp/19cm	山と溪谷社	2005	著者寄贈
布川欣一(編)	目で見る日本登山史——山と溪谷社創立75周年記念出版	352pp/27cm	山と溪谷社	2005	出版社寄贈
遠藤甲太・池田常道(編)	日本登山史年表——山と溪谷社創立75周年記念出版	271pp/27cm	山と溪谷社	2005	出版社寄贈

Climbing & Medicine・50

山での腹痛(1)

—胆石症が原因の場合—

内藤広郎

登山中といえども平地と同様にいろいろな原因で腹痛が起こります。平地であれば、すぐに医療機関を受診できますが、山ではそれができません。従って、緊急性のある場合を速やかに見極める必要があります。今回は、ありふれた病気の1つである胆石症が原因で腹痛が発症する場合について紹介します。

肝臓で作られた胆汁は肝臓から外に出たところで1本の胆管となり、途中、袋のようにふくらんだ胆嚢にたまってから、十二指腸に流れ込んで、脂肪の吸収を助けます。これらの途中のどこかに石ができることを胆石症といいます。胆石症のうちでも胆管に石ができる場合は胆管結石症と言いますが、頻度は少なく、胆管という胆汁の流れる狭い通り道に石ができるので通常いろいろな症状が出ます。従って、これに気づかず登山をすることはあまりないと思われます。

一方、胆嚢に石ができる胆嚢結石症は人間ドック等の超音波検査で3～4%の人に偶然発見されるといわれ、決してまれな病気ではありません。特に女性は男性の約2倍頻度が高く、40歳以上、肥満傾向の人はさらに多くなりますので、中年以降の女性にとっては無症状といえども注意が必要です。

胆石発作は登山中にはじめて起こることもあ

りえます。また、胆石発作のために過去に医療機関で治療を受け、その後は無症状ということもあると思います。一般に胆石の腹痛発作は食後に胆嚢が収縮した際に起こりやすく、典型的にはみぞおちや右上腹部に鈍痛からさしこむような痛みまでいろいろな程度の痛みがあり、嘔吐、発熱や黄疸を伴うことがあります。過去に発作を起こした人は、経験的に痛みの性質から同じ発作であることがわかりますが、無症状で経過していた人は、上記のような症状であれば胆石発作の痛みを考えてください。

胆石発作は過食や、脂肪分の多いものを食べた後などに起こりやすいので、登山中は食事内容を考えると胆石発作を起こす可能性は高くはないと思われます。しかし、発症すれば絶食、点滴による治療が原則ですので、何らかの方法での速やかに下山、医療施設への搬送が必要になります。従って、胆石発作が考えられれば、まずは水分のみで、食事は中止した方が無難です。もし、無理をすれば、急性胆嚢炎から穿孔、敗血症、急性膵炎など、生命に関わる合併症を併発しかねません。

従って、胆石発作の既往があり、しばしば山に登るという人は、消化器の専門医と相談して手術による事前の治療を考慮すべきだと思います。最近では、腹腔鏡を使った胆嚢摘出術が主流ですので、数日の入院で済み、しかも傷もほとんど目立ちません。さらに言えば、山によく登る中年以降の人は検診をきちんと受けて、少なくとも自分は胆石があるのか、ないのか、はっきりさせておいた方がいいでしょう。

会員名簿発行延期のお知らせ

総務委員会

従来、当会の「会員名簿」は、2年に1回、奇数年に発行していましたが、本年の発行は下記の事由によって延期します。

- ①市町村合併が行なわれている最中であるため、その終了までは住所の記述変更箇所が多々発生する。
- ②個人情報保護法の運用が曖昧であるため、ガイドライン等の発表を待って、名簿作成の方法や名簿の内容を再検討したい。

*会員各位にはご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

「キリマンジャロ登山とサファリ」

アフリカ大陸最高峰をゆっくり登山。その後、キリマンジャロの麓でサファリ。

2月10日(金)～2月20日(月)
11日間 ¥548,000



Wec

株式会社ウェック・トレック
国土交通大臣登録旅行業 1662号

〒105-0003 東京都港区西新橋3-24-8 山内ビル4階
電話 03-3437-8848 E-mail info@everest.co.jp

会務報告

10月理事会

日時 17年10月12日 18時30分
20時30分

場所 日本山岳会会議室

出席者 平山会長、平林・橋本・田邊各副会長、吉永・賛田各常務理事、石田・大蔵・野口・斎藤・藤井・渡邊・石橋・古野各理事、山本監事、小倉(董)・重廣各常任評議員

「委任」篠崎理事、一力監事、今村常任評議員

【審議事項】

1 創立100周年記念事業関連
①募金状況(17年9月末現在)
6394万4000円

②財務状況

記念式典等準備のため未集計、10月下旬までに集計予定。

③式典・祝賀晩餐会の準備状況

10月6日、理事懇談会を開催して準備状況を点検したが、再度、式典委員会、神崎委員長より最終的出席状況、式次第等について詳細な最終説明があり、質疑。式典委員会・理事会が一丸となって実

行に当たることとした。

④前夜祭・エクスカージョンの準備状況

外国招待者を対象とした10月14日の前夜祭及び10月16日の日光・東照宮へのエクスカージョンの準備状況について式典委員会より遺漏なく整った旨の報告があり、理事会側参加者の確認がなされた。

2 後援等

①ヒマラヤ国際映画祭実行委員会「ヒマラヤ国際映画祭」名義後援(2006年7月下旬) 開催日時、場所、映画内容等不明のため、明確になった時点で前向きに再検討することとした。(継続)

②(株)アド・ティーアンドエス

東京新聞都内版紙上での日本山岳会「創立100周年記念」特集の広告企画 (承認)

【報告事項】

1 104号と2001号の交換
交換を原因とした所有権移転登記完了の件 吉永 (承認)

2 9/17 中国ブロック式典(広島市) 平山会長(承認)

3 9/17 中部ブロック式典(新潟県) 平林副会長(承認)

4 9月新入会員 16名

ルーム日誌 10月

3日 総務委員会 100周年記念式典委員会

4日 図書委員会 事業委員会

5日 アルパインスケッチクラブ

山岳地理クラブ

6日 理事懇談会 事業委員会

フォトビデオクラブ

7日 会報編集委員会

11日 総務委員会 二火会 アルパインスケッチクラブ

12日 理事会 山想俱樂部

13日 学生会 100周年記念フ

オーラム委員会

17日 資料映像委員会 アルパインスキークラブ JAC 01会

18日 山研運営委員会 インター

ネット小委員会 九五会

19日 指導委員会 三水会 つく

も会 山想俱樂部

20日 科学委員会

21日 専門委員会会議 アルパイ

ンスキークラブ

25日 つくも会 フォトビデオク

ラブ アルパインスキー

26日 常務理事会 ゆきわり会

03同期会

27日 自然保護委員会 マナスル

委員会 山遊会

28日 100周年式典委員会 山

の自然学研究会

10月来室者731名

■会員異動(10月)

物故

広谷精啓(5254) 05・1・7

上中俊治(8488) 05・9・10

松田要悦(9571) 05・10・3

金子泰助(2416) 05・10・11

退会

鹿児島大学山岳部(5987)

飯田睦治郎(8084)

藤岡哲夫(11388) 関西



INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆スキー懇親会のご案内

事業委員会

冬恒例のスキー懇親会を左記の

日程で開催します。

日時 1月7日(土)～9日(月)

場所 岩手県雫石スキー場

網張スキー場へも送迎有り

費用 1万8000円(宿泊、保

険料等)

場所 雫石・民宿高見荘

集合 現地集合・解散

定員 30名

申込 12月15日までに住所、氏名

年齢、会員番号、FAX・

電話番号を明記し、ハガキ

かFAXで山崎浩子宛(〒

236-0033 横浜市金沢区東朝

比奈1-65-3 FAX 045-

782-8712)

*申込者に詳細案内送ります。

◆講習会「山で起きやすいケガの

応急手当と搬送法」医療委員会

実技講習会を行ないます。

日時 2月6日(月)18時30分～20時

30分

講師 恵(いさお) 秀彦ほか

場所 東京都体育館 第1会議室

(JR千駄ヶ谷駅前)

定員 60名(定員に達し次第締め

切り)

費用 資料代10000円(当方で

三角巾、あて布、グローブ

を用意します)

申込 1月20日までに氏名、連絡

先を記入のうえ、FAX、

メール、ハガキで下記まで

(〒102-0081 千代田区四番

町5-4 日本山岳会医療

委員会 FAX 03-3261-

4441 jacntmed@

yahoo.co.jp)

問合せ 医療委員会(野口いづみ

FAX 0424-631287

1)

◆雪期講習会のご案内

指導委員会・事業委員会

バックカントリースキーやスノ

ーシュー等を楽しむ方向けに、冬

山で雪崩をさけるには? 遭った

らどうするかを講習します。

A日程 06年2月11～12日

B日程 06年2月13～14日

講師 棚橋靖氏、松原尚之氏

場所 霧ヶ峰白樺湖周辺

参加費用 3万円を予定(講習料、

資料代、宿代1泊2食付)

定員 各日程とも16名(定員に達

し次第締め切り)

問合せ・申込先 森啓まで (☎) jac-

avalanche@mail.goo.ne.jp

TEL & FAX 03-3488-4

670)

*申込者に詳細案内送ります。

*2月6日に都内で各日程共通座

学講習会を予定しています。

◆「山に魅せられた画家達」モン

ベルクラブ巡回展

日本山岳画協会

山を愛し、山に魅せられ、自然

の詩情を画布に託し描き続けてい

る日本山岳画協会の会員、有志12

名による作品約50点の展示。

■奈良展

会期 12月3日(土)～06年1月3日

(火)10時～22時

会場 モンベルクラブ奈良店(奈

良市二条大路1-3-1

イトーヨーカ堂奈良店4階

TEL 0742-361745

◆編集後記◆

●創立100周年を迎えた10月15

日、記念式典・祝賀晩餐会、記念

講演会が、新高輪プリンスホテル

で盛大に開催されました。当日は、

皇太子さまをはじめ約950人の

会員が集まり華やかな会になりました。

●その記念の号に、皇太子さまか

ら「日本山岳会に入会して」と題

した原稿をいただきました。日本

山岳会への温かいまなざしが感じ

られる内容で、100周年の記念

号にふさわしい巻頭を飾ることが

できたと思います。

●記念式典・祝賀晩餐会の様子も

掲載しましたが、私も晩餐会の席

では、7000番台の方々とご一

緒させていただき、山岳会の古き

良き伝統にもふれることができました。

(神長幹雄)

日本山岳会会報 山 726号

2005年(平成17年)11月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 日本山岳会会長 平山善吉

編集人 神長幹雄

Eメール jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社